

日蓮大聖人御書全集

ちみようぼうごへんじ

智妙房御返事

新版
1714
ゝ
1715

ちみようぼうごへんじ

智妙房御返事

こうあん

ねん

がつ

にち

さい

ちみようぼう

弘安 3 年 ('80)

12 月 18 日

59 歳

智妙房

がもくいつかんおく

た

ほけきよう

ごほうぜん

もう

あ

そうら

お

鵜目一貫送り給びて、法華経の御宝前に申し上げ候いた

わんぬ。

こうだいしやうけ

ごびよう

こごんのだいふどの

おんはか

なによりも、故右大将家の御廟と故権大夫殿の御墓との

焼

そうろうよしうけたまわ

歎

そうら

はちまんだいぼさつ

やけて候由承 けてなげき候えば、また八幡大菩薩な

わかみや

焼

たも

ひと

歎

そうろう

らびに若宮のやけさせ給うこと、いかんが人のなげき候

らん。

せけん

ひとびと

はちまんだいぼさつ

あみだぶつ

けしん

もう

世間の人々は、八幡大菩薩をば阿弥陀仏の化身と申すぞ。

ちゆうご　ひとびと　おんことば

おおすみ

それも中古の人々の御言なれば、さもや。ただし、大隅の

しょうはちまん　い　めい　いっぽう　はちまん　もう　に　じ　いっぽう

正八幡の石の銘には、一方には「八幡」と申す二字、一方

むかしりようじゆせん　あ　みようほけきよう　と　いましろうぐう　なか

には「昔靈鷲山に在って妙法華経を説き、今正宮の中に

あ　だいぼさつ　じげん　とううんぬん　がっし　しやくそん　あらわ

在って大菩薩と示現す」等云々。月氏にては釈尊と顕れ

ほけきよう　と　たま　にほんこく　はちまんだいぼさつ　じげん

て法華経を説き給い、日本国にしては八幡大菩薩と示現し

しょうじき　に　じ　がん　た　たも　きようしゆしやくそん　じゆうこうだい

て「正直」の二字を願に立て給う。教主釈尊は、住劫第九

げん　にんじゆひやくさい　とき　しがつようかきのえとらのひ　ちゆうてんじく　う

の滅、人壽百歳の時、四月八日甲寅日、中天竺に生まれ

たま　はちじゆうねん　へ　にがつじゆうごにちみずのえさるのひ　ごにゆうめつ　たも

給い、八十年を経て、二月十五日壬申日、御入滅なり給

はちまんだいぼさつ　にほんこくだいじゆうろくだいおうじんてんのう　しがつようか

う。八幡大菩薩は、日本国第十六代応神天皇、四月八日

きのえとらのひ

う

たま

おんとしはちじゅう

にがつ

じゅうごにち

甲寅日、生まれさせ給いて、御年八十の二月の十五日

みずのえさる

かく

たも

しゃかぶつ

けしん

もう

誰

壬申に隠れさせ給う。釈迦仏の化身と申すことは、たれの

ひと

争

人かあらそいをなすべき。

いま にほんこく

よんじゅうごおくはちまんきゅうせんろつびやくごじゅうくにん

しかるに、今、日本国の四十五億八万九千六百五十九人

いっさいしゅじょう

ぜんどう

えしん

ようかん

ほうねんとう

だいてんま

証

の一切衆生、善導・恵心・永観・法然等の大天魔にたぼら

しゃくそん

投

捨

あみだぶつ

ほんぞん

かされて、釈尊をなげすてて阿弥陀仏を本尊とす。あまり

もの 狂

じゅうごにち

うば

と

あみだぶつ

ひ

の物ぐるわしさに、十五日を奪い取つて阿弥陀仏の日とな

ようか

紛

やくしぶつ

ひ

うんぬん

親

す。八日をまぎらかして薬師仏の日と云々。あまりにおやを

憎

はちまんだいぼさつ

あみだぶつ

けしん

うんぬん

にくまんとて、八幡大菩薩をば阿弥陀仏の化身と云々。

だいぼさつ 持 成

大菩薩をもてなすようなれども、八幡の御かたきなり。

はちまん おん 敵

し

知らずば、さてもあるべきに、日蓮、この二十八年が間、

にちれん にじゅうはちねん あいだ

いま さんがい もん ひ まよ 示 しん

「今この三界は」の文を引いてこの迷いをしめせば、信ぜ

射 切 殺 流

ずは、さてこそあるべきに、いつ、きつ、ころしつ、ながし

追 はちまんだいぼさつ いえ 焼 てん 上

つ、おうゆえに、八幡大菩薩、宅をやいてこそ天へはのぼり

たま にちれん 勘 そうら りつしようあんこくろん

給いぬらめ。日蓮がかんがえて候いし立正安国論これな

り。

たこく 責 きた 鷹 雉 捕

あわれ、他国よりせめ来つて、たかのきじをとるように、

猫 鼠 咬 とき 尼 にようぼう

ねこのねずみをかむようにせられん時、あまや女房どもの

慌 そうら にちれん いち 類 にじゅうはちねん あいだ責

あわて候わんずらん。日蓮が一るいを二十八年が間せめ

そうら 報 射殺 き

候いしむくいに、あるいはいころし、切りころし、あるい

生捕 たほう 渡 むねもり 縄 付

はいけどり、あるいは他方へわたされ、宗盛がなわつきて

晒 数 千 万 ひとびと 縄 付 責

さらされしように、すせんまんの人々のなわつきてせめら

不便 にほんこく いっさいしゅじょう みな

れんふびんさよ。しかれども、日本国の一切衆生は皆

ごぎやくごい もの 責 てん よろこ ほとけ

五逆罪の者なれば、かくせめられんをば、天も悦び、仏も

許 たま 恥 見 あじやせおう

ゆるし給わじ。あわれ、あわれ。はじめぬさきに、阿闍世王

だいば 戒 しんごんし ねんぶつしや ぜんしゅう もの

の提婆をいましめしように、真言師・念仏者・禅宗の者ど

戒 少 罪 許 たま

もをいましめて、すこしつみをゆるせさせ給えかし。あら

おかし、あらおかし。あらふびん、あらふびん。わわくの誑 惑

奴 原 ちしや

やつばらの智者げなれば、まこととてもてなして、事にあわ

不 便

きようきようきんげん

んふびんさよ。恐々謹言。

じゆうにがつじゆうはちにち

十二月十八日

ぼうごへんじ

ちみよう房御返事

不 便

真

持

成

こと

遭

にちれん

日蓮

かおう

花押